

アートプロジェクト

ジオラマのにわをつくる

千葉県こども病院でアートプロジェクトを行う。

箱庭療法を応用して、病院の中の場所を想像の世界の場所に「見立て」てみる。中庭を撮影した写真をもとに想像を膨らませていき、こどもがイメージする世界を自由につけていく。長期入院でなかなか外に出られない子どもたちに、日常の病院との関係とは異なるツールを与えることで、こどもの創造力を喚起するような出来事を体験してもらう。本ワークショップでこどもが制作する箱庭を再現するようなパーツや風景が、実際の中庭で現実化したりすると(例えばこどもが置いた動物などのミニチュア玩具と同じ動物が中庭に現れたりするなど)、更に本ワークショップの意義が深まっていく。

①対象：4歳以上（ベッドサイドで患者さん1人ずつ実施することが可能）

②実施方法

【個別実施】

・所要時間(想定)：1人あたり20~30分程度

(ただし、こどもの状況により臨機応変に時間設定する)

【グループ】

オープンな集会室などのスペースで、患者さんと保護者や友だちと一緒に行うことも可能。出入り自由な部屋で、参加者も出入り自由とする。

・所要時間(想定)：1~2時間程度

市民参加のかたち：リサーチ対象、ワークショップ



西原 珉（キュレーター/心理療法士）

東京藝術大学美術学部卒業。1990年代の現代美術シーンで活動後に渡米し、ロサンゼルスでソーシャルワーカー兼臨床心理療法士として働く。家族療法、認知行動療法を中心に多くのアプローチを実施し、個人・グループに心理療法を行うほか、シニア施設、DVシェルターなどでコミュニティを基盤とするアートプロジェクトを実施。2018年に日本に戻り、アートとレジリエンスに関わる活動を行う。2021年4月より秋田公立美術大学で教鞭をとり、また国際美術展シリーズ「SPRING 2021」「SUMMER 2022」、展覧会「When we talk about us,」(2023)、国際芸術祭「東京ビエンナーレ 2023」を手掛ける。現在、秋田市文化創造館館長、東京藝術大学先端芸術表現科准教授。